

平成 28 年病害虫の発生と防除

農林水産省消費・安全局 植物防疫課
農産安全管理課農薬対策室

新年を迎え、次期作に向けた諸準備を始めるころであるが、病害虫対策を検討するにあたり、平成 28 年に公表された気象庁資料、各都道府県の発生予察情報および各種統計報告を基に、気象経過、主要病害虫の発生概況および植物防疫事業概況等を取りまとめたので、今後の病害虫防除対策の検討資料として紹介する。また、平成 28 年に都道府県から公表された病害虫発生情報（警報、注意報、特殊報）について、別表に取りまとめたので、本文での病害虫発生状況の記述と併せ参照されたい。

I 天候経過の状況（気象庁報道発表資料より抜粋、図-1）

1 2016 年（平成 28 年）冬（2015 年 12 月～2016 年 2 月）の特徴

（1）冬の後半に寒気の影響を受けた時期もあったが、冬型の気圧配置は長続きしなかったため、全国的に気温が高く暖冬となった。特に、東・西日本の気温はかなり高かった。

（2）冬型の気圧配置が長続きせず、低気圧や前線の影響で、全国的に降水量が多かった。特に沖縄・奄美では、冬の降水量が平年比 188% となり、1947 年の統計開始以来の最も多い値を記録した。

（3）日本海側の降雪量は、冬型の気圧配置が長続きしなかったため、ほぼ全国的に少なかったが、1 月下旬の強い寒気の影響で、九州北部地方ではかなり多くなった。

2 2016 年（平成 28 年）春（3～5 月）の特徴

（1）日本列島の南と東で高気圧が強くなり、南から暖かい空気が流れ込んだため、平均気温は全国的にかなり高かった。

（2）降水量は、低気圧や前線の影響を受けやすかった西日本太平洋側と沖縄・奄美では多くなった。一方、移動性高気圧に覆われて晴れる日が多かったため、北日本太平洋側では少なく、東日本日本海側ではかなり少なかった。

（3）本州付近は移動性高気圧に覆われることが多かったため、北・西日本の日照時間は多く、東日本日本海側ではかなり多かった。

3 2016 年（平成 28 年）夏（6～8 月）の特徴

（1）日本付近は暖かい空気に覆われやすく、全国的に平均気温は高かった。特に、沖縄・奄美では、日照時間が多く強い日射を受けて、平均気温は過去最高の高温となった。

（2）北日本では、6 月は低気圧の影響を受けやすく、8 月は台風が相次いで接近・上陸したことや、前線および湿った気流の影響もあり、降水量がかなり多かった。特に、北日本太平洋側では、降水量は平年比 163% となり、夏として過去最高の多雨となった。

（3）高気圧に覆われやすかったため、日照時間はほぼ全国的に多かった。

4 2016 年（平成 28 年）秋（9～11 月）の特徴

（1）気温は、西日本、沖縄・奄美でかなり高く、東日本で高く、平均気温の記録を更新した地点もあった。一方で、北日本では低かった。

（2）降水量は、西日本でかなり多く、また、東日本太平洋側、沖縄・奄美で多く、観測史上 1 位の記録を更新した地点もあったが、北日本では少なかった。

（3）日照時間は、北日本日本海側、東日本太平洋側、西日本でかなり少なく、北日本太平洋側、東日本日本海側、沖縄・奄美で少なかった。

（参照）

気象庁ホームページ

<http://www.jma.go.jp/jma/press/index.html?t=1&y=28>

II 作物別の病害虫発生状況の概要（表-1）

1 水稻病害虫（表-2(1)①）

病害：平成 28 年は、梅雨時期に長雨に見舞われたことから、一部地域で葉いもちが多発し、8 月に入り相次いで台風が接近・上陸したことから、穂いもちへの進展による被害の拡大が懸念された。そのため、6 月下旬～8 月中旬にかけて、イネいもち病について、11 県から注意報が発表され、防除の徹底が呼びかけられた。その後、夏期に高温に見舞われたこともあり、葉いもちの発生拡大および穂いもちへの進展は抑制され、全国的にイネい

Occurrence of Pests and Diseases and Their Control in 2016 in Japan. By Plant Protection Division, Food Safety and Consumer Affairs Bureau, MAFF

（キーワード：平成 28 年度、病害虫、発生動向、農薬、出荷状況）